神戸新聞 2019年12月08日 日曜日 面名 東播 １４ 31ページ

加古川

加古川市内の企業や行政が抱える課題について、甲南大（神戸市東灘区）の学生が解決策を提案する「加古川『知』を結ぶプロジェクト」の中間報告会が７日、加古川市役所で開かれた。経済、経営学部などのゼミ生らでつくる５チーム40人が、調査やアイデアづくりの進捗（しんちょく）状況を発表した。（小森有喜）

強みを商機に／ニーズつかみ情報発信

企業、行政へ学生提言

「知」を結ぶプロジェクト

甲南大生が中間報告

調査や分析内容を中間報告する甲南大の学生たち＝加古川市役所

加古川市と甲南大が主催し、神戸新聞社が協力している。２０１６年度から取り組む事業で４回目。学生たちは今夏から、企業の社員や市職員へのヒアリング、地元住民らへのアンケートを重ねてきた。この日は、各チームが持ち時間13分で発表した。

経営学部の学生でつくるチームは、物流・ギフト販売会社の「ネオ・ニッセイ」（尾上町）の商品や事業内容を広く知ってもらうことに取り組む。ギフト市場を分析し、日常生活で贈る「パーソナルギフト」の人気が高まっている点に着目。今後、農作物の自社栽培など同社の強みを生かしたギフトを考案するという。

知能情報学部のチームは、市政策企画課シティプロモーション係と連携してインターネット上のサービスを開発。地図上にイベント情報が表示されるアプリなどを紹介した。市のツイッターの解析結果から、午前９時ごろに30～40代の男性と20代の女性が多く見ていると推定し、「ニーズに合わせた情報を発信することが効果的」とした。

市民の防災意識を向上させる取り組みを発表したチームもあった。学生らは来年２月の成果報告会に向けて提案内容に磨きをかけていく。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。